



「防災の日」にあたり

9月1日は、「防災の日」です。当日、隣の横網町公園の東京都慰霊堂で「遭難者 秋季慰霊大法要」が行われます。その対象は関東大震災と第二次世界大戦での都内戦災の遭難者です。

1923年の関東大震災の時、現在東京都慰霊堂のある場所は、当時陸軍被服廠（ひふくしょう）<軍服を作る場所>の移転に伴い跡地に公園の造成が進んでおり、現在の江戸東京博物館あたりまで広大な土地が広がっていました。そして被災した人々が避難しましたが、持ち込まれた家財道具を伝って火が回り「火災旋風」と呼ばれる火の竜巻が起こり、多くの方々が犠牲になりました。この1か所で約3万8千人が亡くなったといわれています。関東大震災全体でも犠牲者が約10万人と言われています。よって犠牲者の多かった横網町公園に東京都慰霊堂が1930年に、東京都復興記念館が1931年に建設されました。在学中に一度は見学してみてもはどうでしょうか。

現在学校のある場所には、当時安田家の人々が住んでいましたが、学園の創設に尽力された方がこの震災で亡くなっています。安田学園（前身の東京保善商業学校）は、1923年4月に神田で開校し、新校舎の計画も進んでいましたが震災で校舎も損壊してしまったため、安田家と相談し現在の場所に、翌年の1924年に移転したのです。安田学園が現在の地にあるのは皮肉にも関東大震災があったからなのです。このような歴史のある学校の生徒だからこそ、高い防災意識を持ってほしいと思います。

地震に対する備えと対応の力は、知識習得と訓練によって向上します。高い防災意識をもって避難訓練等に取り組んでください。そして、何よりも「自分自身の身の安全の確保」が最優先です。そうすれば、その後共助（きょうじょ）といった助け合いができます。

寺田寅彦（てらだ とらひこ）という科学者が残した「天災は忘れた頃にやってくる」ということばがあります。東京では97年間大規模な地震は起きていません。こんなに長く東京が大地震に見舞われていないということは、大地震がくるのがだんだん近づいていると考えて、自分の命を守る心構えをしなければなりません。

ぜひ9月1日の「防災の日」や9月4日の避難訓練は、そういうことを考える日にしてほしいと思います。

校長 稲村 隆雄

○本年度慰霊堂の秋花壇に本校の中学3年生女子のデザインが採用されました。

タイトルは「次へのバトン」です。10月末まで植栽されています。

